本人の「できる」を、増やす関わりへ。

2021年7月19日、応用行動分析を踏まえた「人材開発の根本を問う」の発売を発表しました。

「怒る、叱るとは、
具体的にどうすればよいのか」

応用行動分析学や行動科学を使った仕事のなかで、
管理監督者の方々から、繰り返し寄せられた相談でした。

当時の発表で、向けた視点

**怒ったり叱ったり注意したりするよりも、本人が経験し、
立ち止まって考え、できることを増やす関わりを。**

経験したことを、次に使える手がかりに。

当時の発表は、経験・立ち止まり・振り返る問いを大切にしました。

01

経験する

→ 02

立ち止まる

→ 03

振り返る問いを解く

仕事の場面にすると（例）

作成中の資料で、
一部分をやってみる。

どこまで進めたか。
どこで迷ったか。

何を見て判断したか。
何があれば進められそうか。

本人が見ていた事情と、必要な見本・情報をつなぐ。

仕事を相手の問題解決と捉え、相手の立場・都合を想像する。
当時の視点を、本人の話を聞き、次の一部分を選ぶ関わりへ。

同じ資料でも、決めたいことは違った。

複数の数値のうち、どれを載せるかで止まった場面を、説明の例にしています。



本人の作成途中の資料　　前回の資料

前回、決めたこと

月の実績を振り返る。

今回、決めたいこと

来月、どの仕事を
優先するか。

前回の形と、
今回の目的を並べてみる。

「何を載せるか」を、一緒に選べる。

今回の会議で判断することが分かると、次につくる一部分が具体的になります。

前回の資料にあったもの

実績の一覧

月全体の結果を振り返るための表。

→

今回、先につくるもの

優先する仕事の比較表

候補の仕事・見込める価値・必要な時間。

---

1 途中のものを見る

完成した所と、迷っている所を並べる。

2 本人の話を聞く

何を判断しようとしたかを教えてもらう。

3 見本や方法を選ぶ

今回に合う表の項目を、一緒に選ぶ。

4 次の一歩を決める

まず一つの仕事の行を書き、途中で相談する。

本人の意思と、経験を大切にする。

2026年10月の補足として、行動分析の専門職の倫理規程を参照します。

尊厳と意思

本人の話を聞き、
望む進め方を知る。

選ぶための情報

試せる方法を示し、
本人と一緒に選ぶ。

安全への配慮

無理に進めず、
危害を避ける。

参照したのは、BACBの倫理規程です。

BCBA・BCaBAの資格申請者・保有者に向けた基準です。
尊厳、自己決定、選択に必要な情報、害を避けることを扱います。

倫理規程が示す原則を、本人の話を聞き、
試せる方法と次の一部分を一緒に選ぶ際に役立てます。

BACB：Ethics Code for Behavior Analysts（2020／2024年更新版）

次の面談で、一緒に見るものを一つ。

まだ悩みを言葉にできなくても、近い仕事の場面から考えられます。

意見が違うとき、
どう仕事を前に進めるか。

01　営業担当者との面談

02　部門間の調整

03　方針の変更

最近の一件を思い浮かべる

何を根拠に、
それぞれが話していたか。

作成途中の資料、依頼のメモ、
前回の記録。

一緒に見るとよさそうなものを、
一つ選んでみる。

三つの仕事場面から読む →

ほかの育成の場面・資料へ →